

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームきれんじゃくA	評価実施年月日	平成22年2月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月16日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	全ての職員が参加して運営理念をつくりあげ、理念達成のための具体的なケア理念を職員間で共有している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員は、理念を達成するために具体的な個々の目標を掲げその達成度について話し合い実践できるように努めている。		管理者は、新規職員のオリエンテーション・申し送り・定例ミーティング等で理念の大切さを伝える。職員は、大事なこととして捉え、実践に向けて取り組めるように努める。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域の中でその人らしく暮らしつづけることを運営推進会議・小・中学校の体験学習等の受け入れを通し啓蒙活動に取り組んでいる。		今後も地域に根ざしたグループホーム作りに取り組む、理解を深めてもらえるように努める。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩・近隣スーパーへの買い物・受診等の際、知人・地域の方が声をかけてくださったり、地域のボランティアの方が来訪されたりと日常的な付き合いができるように努めている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会主催である敬老会の参加・末広地区社会福祉協議会主催事業のふれ合いサロンへの参加・年間を通し外出レク等で地域住民との交流を図っている。		同一事業所の小規模多機能型居宅介護との連携により地域住民との交流の場を広げていく。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の民生委員の方、町内会の役員の方に運営推進会議を通し取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施することで意義を再確認し、利用者本意の改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価することで、出来ていること、出来ていない事が明確になる。また、外部評価を実施することで改善に向けて取り組むことができる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議での意見をグループホームのサービス向上に生かしていけるように努める。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>集団指導の参加。何か困った事があれば、その都度相談にいき適切な指導を受けて、サービス向上に努める。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部研修等に参加し理解を深められるように努めている。研修を受けた職員から内部研修時に研修報告をしてもらい活用できる様に努める。</p>	<p>現状では制度の活用は難しい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者は、職員が高齢者虐待防止関連法の意義を理解できるように、内部研修・申し送り・定例ミーティング等で内容を具体的に説明し、理解を得られるように努める。</p>	<p>利用者の心身の状態観察を日々行ない、変化に気がつけるように対応を心がけ虐待防止に努める。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の説明・解約時においても同様、不安が生じないように説明を行ない、理解・納得を得られるように努める。</p>	<p>十分に時間をかけて不安が生じないように努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の思いが伝えられるような対応に心がけている。訴えが聞かれなくても不満・困っている事がないか日々の生活状態を観察しながら、家族にも協力を得て、運営に反映できるように努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族が面会に来訪された時に、生活の様子・健康状態を伝えている。また、3ヶ月に一度近況報告の文章や、行事参加写真を掲載したきれんじやく便りを毎月発行し、金銭管理の報告についても同様に送付している。		遠方の家族には、手紙(代筆)・写真等を送付している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族にアンケートの協力をお願いしたり、こちらから、意見を求めたりと、運営に反映できる様に努めている。		話し易い環境作りを心がける。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	不定期であるものの職員一人一人面談を行ない職員の意見が反映されるように努める。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者・家族の状況変化に対応できるように勤務体制を整えている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者との馴染みの関係を断ち切らないように、職員の移動や離職を必要最小限に抑えることに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年次計画を立案して個々の能力に合わせた外部・内部研修の参加。内部研修は、母体である医療法人と合同研修を行っている。また、同事業所であるグループホーム(5ユニット)においては、2ヶ月に一度合同研修を行い自ら学ぶ力を養っている。</p>	<p>現状では、自主研修の時間の確保が難しくなってきたため、あり方について検討していく。外部研修への参加する機会を増やしていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修の機会に意見交換したり、認知症介護実践研修の受け入れを行っているので情報交換する中でお互いに良いものを取り入れられるように努めている。</p>	<p>現状では時間の確保が難しい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者・管理者は不定期ではあるものの、個々に面談を実施し困っている事・不安なことを傾聴するように努めている。</p>	<p>介護職員に求められる事が膨大になりストレスを軽減できる様に支援する必要がある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>自己覚知することでケアに活かしていけるように、人事考課表を導入し定期的に評価している。</p>	<p>具体的なアドバイスができるように努める。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に、本人と面談を行ない、本人が困っている事・不安なこと・必要としていることを一緒に考え受け止められるよう努めている。本人の真意を表出できるように努めている。</p>	<p>本人の真意が理解でき表出できるように努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前から面談の機会を多く持ち、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを傾聴し職員間で情報交換し情報を共有し、受け止められるように努める。</p>	<p>家族の真意が表出できるように努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容を傾聴し、その人が求めているサービスを照会している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に自宅訪問・施設訪問をしてコミュニケーションが図れるように努める。また、当グループホームに見学に来てもらいホームの雰囲気に馴染んでもらえるように努める。		利用者の体調・都合の良い時間に合わせ無理のないように過ごしてもらい馴染みの関係を作る。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、日々利用者と一緒に過ごす様努めており、本人からの要望を聞いたり、昔話等を通し互いに支えあい学ぶ姿勢を持って関係を築いている。		喜怒哀楽を共感できる様に、出来る限り利用者の側で寄り添って過ごしている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の来訪時または、本人の状況をお伝えする中で、本人がより良く暮していける様に、共に支えていける関係を築けるように努めている。		家族が来訪された時は、日常生活について、本人の様子を必ず伝えるように努めている。但し、認知症について受け入れに時間を要する家族もいらっしゃるので状況を見ながら対応に心がけている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	より良い関係を築くためには、今までどのように本人と、家族が、関係を築いてきたのかしっかりアセスメントをとり、認知症についての理解が不可欠であることを理解してもらえるように努める。		家族が気軽に足を運んでいただけるように暖かいグループホームの雰囲気作りに努める。また、本人の状態が良い方向に進んでいくことで関係が再構築されるよう努める。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係が途切れないようにいつでも面会できる様にししたり、手紙を書いたり(代筆)電話を利用したりと関係が途切れないように努めている。		今後も本人が社会とのかかわりを持ちながら馴染みの関係が途切れないように生活していただけるように支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は、日々利用者の様子を見て把握に努め、利用者同士が話し易いよう、仲介したり、一人で過ごして輪の中に入れない場合は、積極的に声かけを行ない、孤立しないように努める。		利用者の些細な変化も見逃さず利用者同士が活発に交流できる様支援していく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も相談に来訪されたり、立ち寄ってくださる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が利用者と一緒に過ごす中で本人の希望・思いを感じとり把握に努め、本人の意向に添うように対応している。		日々一人一人が職員に思いや、希望を伝えられるよう、職員が側で寄り添うことで言葉にならない言葉を感じ取れるように努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族・本人・知人から聞き取りを行ない、これまでの暮らしの把握に努める。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の過ごし方、心身の状態等現状を把握し、職員間で話し合い、情報を共有できるように努める。		アセスメント・支援経過・申し送り・定例ミーティング・申し送りノート等を活用することで職員間の情報が共有できるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族・必要関係者から情報を収集し、介護計画に反映できるよう努めている。日々職員から様々な意見や情報を提供してもらい、介護計画を立てている。		本人・家族・関係機関・職員間で連携を密にして、本人がより良く暮せるように、利用者本意の介護計画を作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月モニタリングを行ない3ヶ月に一度見直しを行っている。と共に、心身状況に変化があれば、検討会議を開催し現状に即した介護計画を作成している。		心身の変化に即時に対応できる様に、本人・家族・関係職員との連携を図る。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに添った介護記録の記入に努めることで、情報の共有、具体的なケアの実践、モニタリングに活かしている。		全ての職員が、個別記録から介護計画に反映できる様に努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体が医療法人なので例えば、嚥下・歩行等に問題が生じれば口腔リハビリ・パワーリハビリ等の利用も可能である。		個々に、必要に応じた対応を心がける。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会・警察・消防・ボランティア・小中学校の生徒の体験学習の受け入れ、運営推進会議・グループホームの行事の参加等協力体制を整えている。		町内会主催の敬老会の参加・ホームでの避難訓練に運営推進会議を開き、地域の方にもグループホームを知ってもらえるように努める。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他地域のサービス事業者・ケアマネージャーと連携し必要なサービスを提供できる様に努める。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターより必要に応じ情報を提供してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		<p>かかりつけ医への受診を定期的に行っている。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要な方については、認知症専門医への受診を行ない相談・診療できる様に支援している。</p>		<p>専門医との連携を図り、より良い対応に努める。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>母体が医療法人なので提携医療機関の看護師・他の医療機関を受診している方については、担当看護師に相談しながら支援している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が安心して過ごせる様医療機関との情報交換を行ない、早期退院に向け相談しながら連携を図っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合、終末期について、担当医師並びに職員は、本人、家族の思いや方針を相談しながら対応に努めている。また、状態に変化があれば、その都度確認をとって全員で方針を共有できる様に努めている。</p>		<p>利用者に変化があった場合は、その都度、家族と話し合い、文章で同意書を交わしている。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者が終末期に向け、安心してより良い生活を営める様、環境を整え、チームとして取りくんでいる。医師、看護師と変化に備えて連携を図り、連絡体制を整えたり準備をしている。</p>		<p>終末期に向け職員間で情報を共有し、チームアプローチを行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人がグループホーム以外の別の居住場所に移り住む際は、関係者間で十分な話し合いの場を設け、情報交換を行っている。その際、本人の住替えによるダメージを防ぐよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員は常に入居者個人の権利、尊厳を尊重して言葉かけや対応に配慮してプライバシーの確保に努めている。記録等の個人情報は、本人の名前を伏せている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日頃より、本人の表情や言動を観察し、職員間で情報を共有することで本人の真意を理解できる様に努めている。本人が思いや希望を表せるように働きかけている。又、本人の理解力に合わせた説明を行ない自己決定出来る様、支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人のその日の状況を職員が把握し、本人のペースに合わせながら、どう過ごしたいのが希望にそって支援している。</p>		<p>職員側の決まりや都合を優先させないように努めている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出時、着替えの際は、本人と相談し、その日に着たい洋服を選んでもらっている。シャンプー・化粧品も本人の嗜好に合った物を使用している。又、理容・美容店においても本人の望む店に行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者が楽しめるよう明るい雰囲気作りを心掛けている。毎回、オシボリ畳みや食器拭き・後片付けを職員と一緒にやっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が好む飲み物、おやつを日常的に楽しめるよう提供している。本人が希望される時は、職員と一緒に購入している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人のプライバシーに配慮しながら、トイレ内で排泄の支援をしている。一人ひとりの排泄パターン・習慣を職員が把握するよう努めている。また、立位が不安定な方は、職員2人対応の支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望している時間に入っただき一対一の対応でリラックス出来るよう一緒に歌をうたったり、会話し入浴を楽しめるよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人が安心して気持ちよく休息・入眠が出来るよう、居室の明るさ、臥床時の体位・布団の掛け方等、一人ひとりの生活習慣に応じて支援している。状況によっては、入眠されるまでの間、添い寝をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の生活歴を参考にして、本人の好む事や楽しめることを職員間で検討して、支援している。行事、レクリエーション、体操、食事の手伝い等。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の能力に応じて、本人が管理している場合もある。スーパーへ買い物へ行ったり、本人の希望に応じて、職員が購入したり、本人の満足に答えるように支援している。		購入時には利用者と買い物に行く様にして、本人とのコミュニケーションを図る時間を作っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム周辺や近所の散歩に行ったり、行事でドライブに出掛けたり、個人の希望に添える様に支援を行なっている。外食や行事等、積極的に外出できる環境づくりを心がけている。		冬季においては、出かける機会が少ない。個別対応で外出する機会を作りたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の希望を聞きながら実施している。又、本人、家族の希望があれば、家族と一緒に外食や買い物に外出したり、自宅に外泊もしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人要望に応じていつでも電話ができる。家族や知人との関係を大切に、本人が孤独を感じる事なく、生活をしていける様に支援している。希望に応じ、職員が代筆して手紙の送付をしている。		遠方の家族へは、3ヶ月に一度手紙を送付をしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂いている。来訪された際には、本人の状況を必ず説明している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行い、職員一人一人が理解を深め、身体拘束しないケアを実践している。		身体拘束についての研修会に参加したり、今後も知識を深めていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでおり実践している。帰宅の訴えがある利用者には、その都度付き添って歩行し鍵をかけないケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者が負担に感じる事がない様、さりげなく確認している。常に、利用者の行動を観察し、職員間で声かけをして連携を図り、安全に配慮している。夜間については、プライバシーに配慮した対応に心がけている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自分で管理できる方は管理していただいている。一人一人の状況に応じて、細心の注意を払っている。又、ホームの物品については、手の届かないところで管理しており、毎日個数を確認している。		確認表にて、毎日、個数をチェックしている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを活用したり、利用者の個々の状態に応じて把握し、対応の検討に努めており、事故防止に取り組んでいる。		外部の研修会に参加したり、内部でも研修の場面を多く作っている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時のマニュアルに添って、各対処法を職員間で周知できるように努めている。又、急変時に備えて対処法について、日頃から職員で話しあっている。		救命講習の参加・救急バック、蘇生バックを常備している。緊急時に備えて定期的に物品チェックしている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に防火訓練を行なっている。又、災害時の連絡網があり、連絡体制が整っている。地域の方々にも参加していただいている。		マニュアルについては、未完成のものもあるので作成、定期的な訓練に努める。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者に変化が生じた場合は、すぐに家族へ連絡をして、状況を説明している。又、様々なリスクについても、家族、ホームの間で話し合われるように対応に努める。		入居時より高齢者であることのリスクを説明し理解していただけるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>バイタル、食事、排泄、水分、睡眠の状態をチェックして、記録に残している。申し送りを徹底して、連絡ノートや家族連絡ノート等で情報を共有して、早期発見できる様、努めている。</p>	<p>ヒヤリハット報告書を記載している。職員間で未然に防止できる様に努めている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を利用者毎にファイルして、服薬の目的、用量、副作用を理解し、服薬支援している。症状の変化の確認に努めながら、対応している。</p>	<p>誤薬がない様、2名の職員で確認しながら投薬している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>栄養士の管理のもと献立を立案し、乳製品や、繊維質の多い食事をバランス良く摂っていただいている。又、体操や歩行運動をしたり、腹部マッサージを行なって、便秘にならない様対応している。</p>	<p>排便表にて便秘の確認をしており、個々の対応をしている。内服薬の調整等を行っている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、義歯洗浄、口腔内確認している。個々の状態に応じた支援を行なっている。歯科医師の往診を受けたり、アドバイスをいただいている。</p>	<p>口腔衛生の必要性を職員が意識をもって対応できるように努める。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量をチェックしている。個々の健康状態を把握し支援できる様、努めている。一人一人の習慣に応じて臨機応変な対応を行なっている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルに添って各対処方法を行い、感染症予防に努めている。内部研修も行っており、予防に対する意識を高めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>利用者のおしぼり、タオルは毎食後に消毒。調理器具は、毎夕食後に消毒し、清潔、衛生の保持に努めている。業者より、新鮮な食材を仕入れ、保管には充分配慮している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関には、花や置物を飾ったり、出入口には、グループホームとわかる様に案内板をつけて、工夫している。</p>		<p>ハード面が難しい為、苦慮している。今後も、安心してきて親しみが持てる様な、玄関周りの工夫をしていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾ったり、野菜を育てたり、生活感や季節感を取り入れて、一緒に楽しみ穏やかに過ごす事ができる様に努めている。又、食堂や居間は明るい雰囲気になる様に手作りの飾り物をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>多目的ホール、休憩室、スタッフルーム、自室、他者の部屋、併設事業所等、自由に行き来ができ、本人が居心地良く生活できる様に支援している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの物、使い慣れた物(仏壇等)を自室に置いて、本人が居心地よく過ごせる様に、家族と相談しながら、工夫している。本人・家族の写真等も掲示して楽しめている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度計、湿度計を設置して一定の温度で過ごせる様、配慮している。汚物は新聞紙に包み、臭いがこもらない様にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>四季折々花、野菜などを利用者の方と一緒に育て楽しみたい。今年は、利用者の希望に加えアイズプラント？を植えたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ① 少しずつ増えている <input type="radio"/> ② あまり増えていない <input type="radio"/> ③ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ① 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ② 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ③ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ① 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ③ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ① 家族等の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ② 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ③ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 開設当初より運営理念・ケア理念を作り上げ大事に受け継がれている。理念に基づいたケアを職員間で共有し実践できるように努めている。母体が医療法人なので医療連携のもと健康管理に留意し安心して生活ができるように支援している。重度化した場合、終末期のケアにおいても、担当医師及び職員は、利用者、家族の思いや方針を相談しながら、全員で方針を共有し対応に努めている。家族の方が、当グループホームに足を運んでくださることが何よりの喜びです。家族のご協力のもと、私たち職員が、利用者一人一人の理解を深め、その方の人生を学びより良い介護を目指している。笑顔が絶えない職場作りを心がけていきたい。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームきれんじゃくB	評価実施年月日	平成22年2月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月16日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	全ての職員が参加して運営理念をつくりあげ、理念達成のための具体的なケア理念を職員間で共有している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員は、理念を達成するために具体的な個々の目標を掲げその達成度について話し合い実践できるように努めている。		管理者は、新規職員のオリエンテーション・申し送り・定例ミーティング等で理念の大切さを伝える。職員は、大事なこととして捉え、実践に向けて取り組めるように努める。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域の中でその人らしく暮らしつづけることを運営推進会議・小・中学校の体験学習等の受け入れを通し啓蒙活動に取り組んでいる。		今後も地域に根ざしたグループホーム作りに取り組む、理解を深めてもらえるように努める。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩・近隣スーパーへの買い物・受診等の際、知人・地域の方が声をかけてくださったり、地域のボランティアの方が来訪されたりと日常的な付き合いができるように努めている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会主催である敬老会の参加・末広地区社会福祉協議会主催事業のふれ合いサロンへの参加・年間を通し外出レク等で地域住民との交流を図っている。		同一事業所の小規模多機能型居宅介護との連携により地域住民との交流の場を広げていく。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の民生委員の方、町内会の役員の方に運営推進会議を通し取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施することで意義を再確認し、利用者本意の改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価することで、出来ていること、出来ていない事が明確になる。また、外部評価を実施することで改善に向けて取り組むことができる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議での意見をグループホームのサービス向上に生かしていけるように努める。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>集団指導の参加。何か困った事があれば、その都度相談にいき適切な指導を受けて、サービス向上に努める。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部研修等に参加し理解を深められるように努めている。研修を受けた職員から内部研修時に研修報告をしてもらい活用できる様に努める。</p>	<p>現状では制度の活用は難しい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者は、職員が高齢者虐待防止関連法の意義を理解できるように、内部研修・申し送り・定例ミーティング等で内容を具体的に説明し、理解を得られるように努める。</p>	<p>利用者の心身の状態観察を日々行ない、変化に気がつけるように対応を心がけ虐待防止に努める。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の説明・解約時においても同様、不安が生じないように説明を行ない、理解・納得を得られるように努める。</p>	<p>十分に時間をかけて不安が生じないように努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の思いが伝えられるような対応に心がけている。訴えが聞かれなくても不満・困っている事がないか日々の生活状態を観察しながら、家族にも協力を得て、運営に反映できるように努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族が面会に来訪された時に、生活の様子・健康状態を伝えている。また、3ヶ月に一度近況報告の文章や、行事参加写真を掲載したきれんじやく便りを毎月発行し、金銭管理の報告についても同様に送付している。		遠方の家族には、手紙(代筆)・写真等を送付している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族にアンケートの協力をお願いしたり、こちらから、意見を求めたりと、運営に反映できる様に努めている。		話し易い環境作りを心がける。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	不定期であるものの職員一人一人面談を行ない職員の意見が反映されるように努める。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者・家族の状況変化に対応できるように勤務体制を整えている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者との馴染みの関係を断ち切らないように、職員の移動や離職を必要最小限に抑えることに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年次計画を立案して個々の能力に合わせた外部・内部研修の参加。内部研修は、母体である医療法人と合同研修を行っている。また、同事業所であるグループホーム(5ユニット)においては、2ヶ月に一度合同研修を行い自ら学ぶ力を養っている。</p>	<p>現状では、自主研修の時間の確保が難しくなっているため、あり方について検討していく。外部研修への参加する機会を増やしていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修の機会に意見交換したり、認知症介護実践研修の受け入れを行っているので情報交換する中でお互いに良いものを取り入れられるように努めている。</p>	<p>現状では時間の確保が難しい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者・管理者は不定期ではあるものの、個々に面談を実施し困っている事・不安なことを傾聴するように努めている。</p>	<p>介護職員に求められる事が膨大になりストレスを軽減できる様に支援する必要がある。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>自己覚知することでケアに活かしていけるように、人事考課表を導入し定期的に評価している。</p>	<p>具体的なアドバイスができるように努める。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に、本人と面談を行ない、本人が困っている事・不安なこと・必要としていることを一緒に考え受け止められるよう努めている。本人の真意を表出できるように努めている。</p>	<p>本人の真意が理解でき表出できるように努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前から面談の機会を多く持ち、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを傾聴し職員間で情報交換し情報を共有し、受け止められるように努める。</p>	<p>家族の真意が表出できるように努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容を傾聴し、その人が求めているサービスを照会している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に自宅訪問・施設訪問をしてコミュニケーションが図れるように努める。また、当グループホームに見学に来てもらいホームの雰囲気に馴染んでもらえるように努める。		利用者の体調・都合の良い時間に合わせ無理のないように過ごしてもらい馴染みの関係を作る。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、日々利用者と一緒に過ごす様努めており、本人からの要望を聞いたり、昔話等を通し互いに支えあい学ぶ姿勢を持って関係を築いている。		喜怒哀楽を共感できる様に、出来る限り利用者の側で寄り添って過ごしている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の来訪時または、本人の状況をお伝えする中で、本人がより良く暮していける様に、共に支えていける関係を築けるように努めている。		家族が来訪された時は、日常生活について、本人の様子を必ず伝えるように努めている。但し、認知症について受け入れに時間を要する家族もいらっしゃるのでは状況を見ながら対応に心がけている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	より良い関係を築くためには、今までどのように本人と、家族が、関係を築いてきたのかしっかりアセスメントをとり、認知症についての理解が不可欠であることを理解してもらえるように努める。		家族が気軽に足を運んでいただけるように暖かいグループホームの雰囲気作りに努める。また、本人の状態が良い方向に進んでいくことで関係が再構築されるよう努める。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係が途切れないようにいつでも面会できる様にしたり、手紙を書いたり(代筆)電話を利用したりと関係が途切れないように努めている。		今後も本人が社会とのかかわりを持ちながら馴染みの関係が途切れないように生活していただけるように支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は、日々利用者の様子を見て把握に努め、利用者同士が話し易いよう、仲介したり、一人で過ごして輪の中に入れない場合は、積極的に声かけを行ない、孤立しないように努める。		利用者の些細な変化も見逃さず利用者同士が活発に交流できる様支援していく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も相談に来訪されたり、立ち寄ってくださる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が利用者と一緒に過ごす中で本人の希望・思いを感じとり把握に努め、本人の意向に添うように対応している。		日々一人一人が職員に思いや、希望を伝えられるよう、職員が側で寄り添うことで言葉にならない言葉を感じ取れるように努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族・本人・知人から聞き取りを行ない、これまでの暮らしの把握に努める。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の過ごし方、心身の状態等現状を把握し、職員間で話し合い、情報を共有できる様に努める。		アセスメント・支援経過・申し送り・定例ミーティング・申し送りノート等を活用することで職員間の情報が共有できる様に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族・必要関係者から情報を収集し、介護計画に反映できるよう努めている。日々職員から様々な意見や情報を提供してもらい、介護計画を立てている。		本人・家族・関係機関・職員間で連携を密にして、本人がより良く暮せるように、利用者本意の介護計画を作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月モニタリングを行ない3ヶ月に一度見直しを行っている。と共に、心身状況に変化があれば、検討会議を開催し現状に即した介護計画を作成している。		心身の変化に即時に対応できる様に、本人・家族・関係職員との連携を図る。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに添った介護記録の記入に努めることで、情報の共有、具体的なケアの実践、モニタリングに活かしている。		全ての職員が、個別記録から介護計画に反映できる様に努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体が医療法人なので例えば、嚥下・歩行等に問題が生じれば口腔リハビリ・パワーリハビリ等の利用も可能である。		個々に、必要に応じた対応を心がける。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会・警察・消防・ボランティア・小中学校の生徒の体験学習の受け入れ、運営推進会議・グループホームの行事の参加等協力体制を整えている。		町内会主催の敬老会の参加・ホームでの避難訓練に運営推進会議を開き、地域の方にもグループホームを知ってもらえるように努める。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他地域のサービス事業者・ケアマネージャーと連携し必要なサービスを提供できる様に努める。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターより必要に応じ情報を提供してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		<p>かかりつけ医への受診を定期的に行っている。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要な方については、認知症専門医への受診を行ない相談・診療できる様に支援している。</p>		<p>専門医との連携を図り、より良い対応に努める。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>母体が医療法人なので提携医療機関の看護師・他の医療機関を受診している方については、担当看護師に相談しながら支援している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が安心して過ごせる様医療機関との情報交換を行ない、早期退院に向け相談しながら連携を図っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合、終末期について、担当医師並びに職員は、本人、家族の思いや方針を相談しながら対応に努めている。また、状態に変化があれば、その都度確認をとって全員で方針を共有できる様に努めている。</p>		<p>利用者に変化があった場合は、その都度、家族と話し合い、文章で同意書を交わしている。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者が終末期に向け、安心してより良い生活を営める様、環境を整え、チームとして取りくんでいる。医師、看護師と変化に備えて連携を図り、連絡体制を整えたり準備をしている。</p>		<p>終末期に向け職員間で情報を共有し、チームアプローチを行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人がグループホーム以外の別の居住場所に移り住む際は、関係者間で十分な話し合いの場を設け、情報交換を行っている。その際、本人の住替えによるダメージを防ぐよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員は常に入居者個人の権利、尊厳を尊重して言葉かけや対応に配慮してプライバシーの確保に努めている。記録等の個人情報は、本人の名前を伏せている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日頃より、本人の表情や言動を観察し、職員間で情報を共有することで本人の真意を理解できる様に努めている。本人が思いや希望を表せるように働きかけている。又、本人の理解力に合わせた説明を行ない自己決定出来る様、支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人のその日の状況を職員が把握し、本人のペースに合わせながら、どう過ごしたいのが希望にそって支援している。</p>		<p>職員側の決まりや都合を優先させたまわらないよう努めている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出時、着替えの際は、本人と相談し、その日に着たい洋服を選んでもらっている。シャンプー・化粧品も本人の嗜好に合った物を使用している。又、理容・美容店においても本人の望む店に行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者が楽しめるよう明るい雰囲気作りを心掛けている。毎回、オシボリ畳みや食器拭き・後片付けを職員と一緒にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が好む飲み物、おやつを日常的に楽しめるよう提供している。本人が希望される時は、職員と一緒に購入している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人のプライバシーに配慮しながら、トイレ内で排泄の支援をしている。一人ひとりの排泄パターン・習慣を職員が把握するよう努めている。また、立位が不安定な方は、職員2人対応の支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望している時間に入っただき一対一の対応でリラックス出来るよう一緒に歌をうたったり、会話し入浴を楽しめるよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人が安心して気持ちよく休息・入眠が出来るよう、居室の明るさ、臥床時の体位・布団の掛け方等、一人ひとりの生活習慣に応じて支援している。状況によっては、入眠されるまでの間、添い寝をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の生活歴を参考にして、本人の好む事や楽しめることを職員間で検討して、支援している。行事、レクリエーション、体操、食事の手伝い等。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の能力に応じて、本人が管理している場合もある。スーパーへ買い物へ行ったり、本人の希望に応じて、職員が購入したり、本人の満足に答えるように支援している。		購入時には利用者と買い物に行く様にして、本人とのコミュニケーションを図る時間を作っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム周辺や近所の散歩に行ったり、行事でドライブに出掛けたり、個人の希望に添える様に支援を行なっている。外食や行事等、積極的に外出できる環境づくりを心がけている。		冬季においては、出かける機会が少ない。個別対応で外出する機会を作りたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の希望を聞きながら実施している。又、本人、家族の希望があれば、家族と一緒に外食や買い物に外出したり、自宅に外泊もしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人要望に応じていつでも電話ができる。家族や知人との関係を大切にして、本人が孤独を感じる事なく、生活をしていける様に支援している。希望に応じ、職員が代筆して手紙の送付をしている。		遠方の家族へは、3ヶ月に一度手紙を送付をしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂いている。来訪された際には、本人の状況を必ず説明している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行い、職員一人一人が理解を深め、身体拘束しないケアを実践している。		身体拘束についての研修会に参加したり、今後も知識を深めていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでおり実践している。帰宅の訴えがある利用者には、その都度付き添って歩行し鍵をかけないケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者が負担に感じる事がない様、さりげなく確認している。常に、利用者の行動を観察し、職員間で声かけをして連携を図り、安全に配慮している。夜間については、プライバシーに配慮した対応に心がけている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自分で管理できる方は管理していただいている。一人一人の状況に応じて、細心の注意を払っている。又、ホームの物品については、手の届かないところで管理しており、毎日個数を確認している。		確認表にて、毎日、個数をチェックしている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを活用したり、利用者の個々の状態に応じて把握し、対応の検討に努めており、事故防止に取り組んでいる。		外部の研修会に参加したり、内部でも研修の場面を多く作っている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時のマニュアルに添って、各対処法を職員間で周知できるように努めている。又、急変時に備えて対処法について、日頃から職員で話しあっている。		救命講習の参加・救急バック、蘇生バックを常備している。緊急時に備えて定期的に物品チェックしている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に防火訓練を行なっている。又、災害時の連絡網があり、連絡体制が整っている。地域の方々にも参加していただいている。		マニュアルについては、未完成のものもあるので作成、定期的な訓練に努める。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者に変化が生じた場合は、すぐに家族へ連絡をして、状況を説明している。又、様々なリスクについても、家族、ホームの間で話し合われるように対応に努める。		入居時より高齢者であることのリスクを説明し理解していただけるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>バイタル、食事、排泄、水分、睡眠の状態をチェックして、記録に残している。申し送りを徹底して、連絡ノートや家族連絡ノート等で情報を共有して、早期発見できる様、努めている。</p>	<p>ヒヤリハット報告書を記載している。職員間で未然に防止できる様に努めている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を利用者毎にファイルして、服薬の目的、用量、副作用を理解し、服薬支援している。症状の変化の確認に努めながら、対応している。</p>	<p>誤薬がない様、2名の職員で確認しながら投薬している。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>栄養士の管理のもと献立を立案し、乳製品や、繊維質の多い食事をバランス良く摂っていただいている。又、体操や歩行運動をしたり、腹部マッサージを行なって、便秘にならない様対応している。</p>	<p>排便表にて便秘の確認をしており、個々の対応をしている。内服薬の調整等を行っている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、義歯洗浄、口腔内確認している。個々の状態に応じた支援を行なっている。歯科医師の往診を受けたり、アドバイスをいただいている。</p>	<p>口腔衛生の必要性を職員が意識をもって対応できるように努める。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量をチェックしている。個々の健康状態を把握し支援できる様、努めている。一人一人の習慣に応じて臨機応変な対応を行なっている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルに添って各対処方法を行い、感染症予防に努めている。内部研修も行っており、予防に対する意識を高めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>利用者のおしぼり、タオルは毎食後に消毒。調理器具は、毎夕食後に消毒し、清潔、衛生の保持に努めている。業者より、新鮮な食材を仕入れ、保管には充分配慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関には、花や置物を飾ったり、出入口には、グループホームとわかる様に案内板をつけて、工夫している。</p>		<p>ハード面が難しい為、苦慮している。今後も、安心してきて親しみが持てる様な、玄関周りの工夫をしていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾ったり、野菜を育てたり、生活感や季節感を取り入れて、一緒に楽しみ穏やかに過ごす事ができる様に努めている。又、食堂や居間は明るい雰囲気になる様に手作りの飾り物をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>多目的ホール、休憩室、スタッフルーム、自室、他者の部屋、併設事業所等、自由に行き来ができ、本人が居心地良く生活できる様に支援している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの物、使い慣れた物(仏壇等)を自室に置いて、本人が居心地よく過ごせる様に、家族と相談しながら、工夫している。本人・家族の写真等も掲示して楽しんでいる。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度計、湿度計を設置して一定の温度で過ごせる様、配慮している。汚物は新聞紙に包み、臭いがこもらない様にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>四季折々花、野菜などを利用者の方と一緒に育て楽しみたい。今年は、利用者の希望に加えアイスプラント？を植えたい。</p>

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p><input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)A棟同様。